

## 再生普及行動計画の見直しに伴う体制の変更について

### 1 これまでの環境教育WGの活動について

#### ○環境教育WGの活動内容

2007年に設置以降、学校における湿原の活用促進を目的として、主に以下の取り組みを行った。

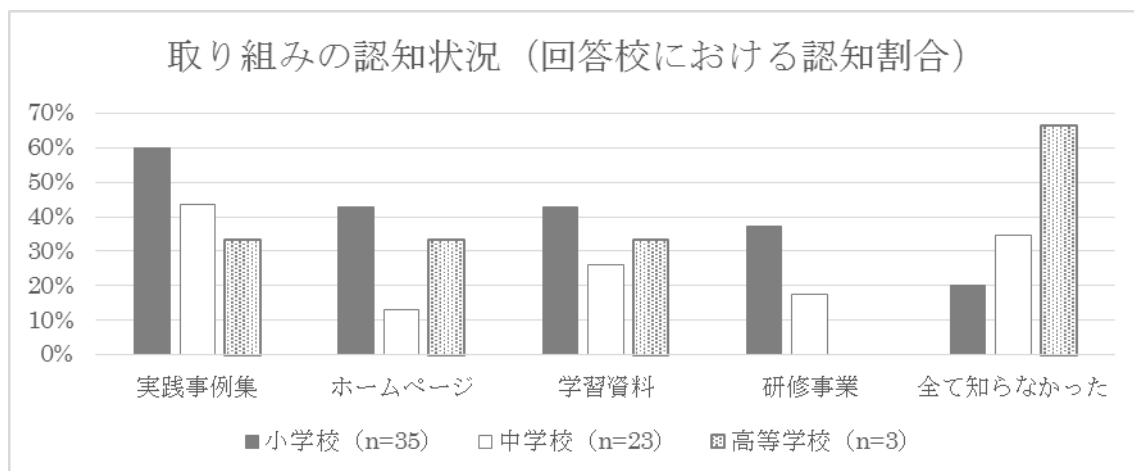
- ・実践事例集『きづく わかる まもる 釧路湿原』の作成（2008年12月作成）
- ・WEBサイト『きづく わかる まもる 釧路湿原 (kushiro-ee.jp)』への情報掲載と周知
- ・釧路湿原を題材とした学習資料の作成と活用促進（2012年3月～）
- ・教育委員会と連携した教員研修講座の開催（2009年～）

#### ○活動の成果

アンケート調査より、小学校から高等学校別に、また取り組みの種類によって認知度に差はあるものの、一定の認知度が得られていることがわかった。また、学校現場においては様々な形で実際に活用されており、活用に至らなかった学校においても、学習資料等の存在を意識した意見が得られている。加えて、教育委員会からの評価と協力、教員研修へのリピーターとしての参加教員の増加（※）、北海道教育大学釧路校境准教授との連携等、湿原の活用促進を行う上で求められる学校関係者との関係づくりにおいても一定の成果を得ることができた。

※10名の教員が2回から5回参加し、10回の研修講座に全80名の教員が参加

#### ■ 学校の認知状況（学校アンケートより）



## ■ 取り組みに対する学校からの意見等（学校アンケートより）

### 《実践での活用》

- ・生徒の調べ学習のために、更に掲載資料を増やし、外部リンクの情報も多く掲載すると利用しやすい。
- ・体験したことを振り返るために非常に有効であった。
- ・昨年度まで1年生は岩保木水門まで遠足を実施していたので、資料を参考にして担当から話をしたり、講師の先生に講話してもらったり同行してもらうこともあった
- ・4年生の子ども達が、湿原を課題とした場合は活用できるが、課題にするかどうかは児童に選択させるので、毎年使う資料として整備していない。使いたい時に、担任が上記の資料に気づくように整備していかなければならない。
- ・授業時間の確保がされていないが、湿原をテーマに選んだ児童には紹介し、資料として利用していると考えられる。
- ・児童の学習内容と直接関わりがなかったため、活用できなかった。
- ・授業の中で取り上げる機会がなかった。

### 《教員の研鑽に有用》

- ・他地域から転入してきた教員にとっては、状況を知る有効なツールである。
- ・授業研究（知識を得ること）にとっても役に立った。
- ・湿原の情報など参考にしている。タンチョウ等については地域の方の指導をいただいている。
- ・本校では活用はしていないが、教員によっては、釧路湿原が関わってくる場面では映像や写真を使うなどして、身近な環境資源であることを伝えている。今後も、「釧路湿原」という形でのテーマは難しいが、大上段に構えずに社会や理科等で取り入れられるような教材を、職員に提示していきたいと考えている。
- ・釧路市としては、貴重な学習資源であることは理解しているが、釧路東部地区としては、湿原が身の回りになく、身近に感じられる題材ではない。ただ、教員自身は、釧路市で教員をしている以上、教材化の意義や釧路湿原に係るデータ等の情報はしっかりと身に付けておく必要があると考える。
- ・学校として教材で取り上げていないため活用していないが、先生方には回覧しながら紹介はしている。

### 《計画の作成等に有用》

- ・年間指導計画を作成する際に参考にした。
- ・児童の個人課題の計画を立てるときの資料として活用した。
- ・教師の研修用資料として活用した。

### 《今後の活用への意向》

- ・これまで活用したことはなかったが、社会科や総合的な学習の時間の中で、地元弟子屈が釧路川の出発点であるという視点での資料として活用を検討する。
- ・教材化に至っていないため、活用はしていない。
- ・知ってはいたが、活用するところまでは至っておらず、今後参考にしたい。

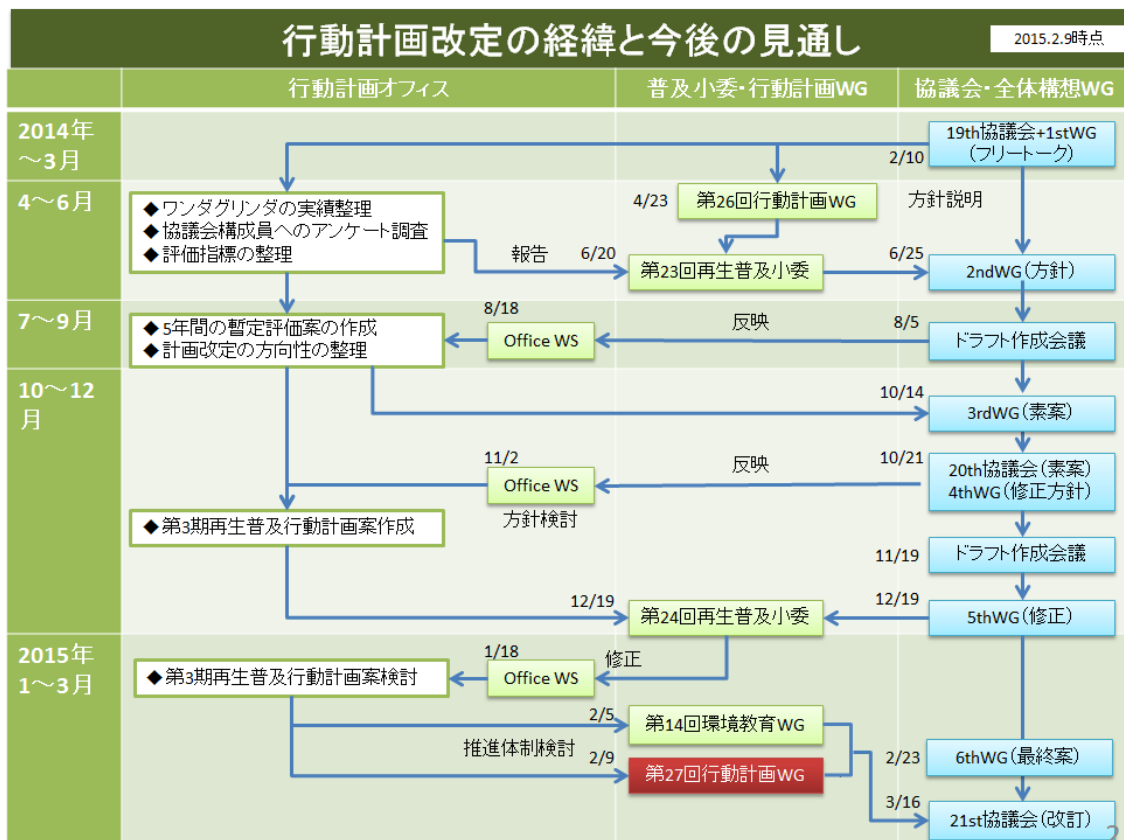
- ・十分に事例集を生かすことができないが、時間的な余裕があれば、もっと活用していきたい。

### 《その他意見》

- ・個人的には資料として読んでいるが、学校のテーマとして湿原学習に取り組んでいないこともあり、一般の先生がどの程度参考にしてているかはわからない。各種団体等から、様々な資料やパンフレット、DVD等が送付されてくるが、あまりにも情報物がありすぎて、ほとんど見る暇がないというのが学校の現状である。
- ・写真やイラストが分かりやすい。
- ・テーマ別になっているので使いやすい。15分程度の様々な種類の映像があると、よりイメージさせやすいのではないかな。

## 2 体制の変更について

再生普及小委員会において、以下のように議論が進められており、現在の環境教育ワーキンググループは一定の役割を果たしたことから、今年度をもって解散とし、新たな推進体制の検討を進める。



※再生普及小委員会配布資料より抜粋

## 行動計画の骨格

	第2期計画	第3期計画
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な行動、取組む人を支援する。</li> <li>第1期計画で広げてきた釧路湿原への「関心」や「学び」をさらに広げ、「参加」、「行動」につなげ、「深める」。</li> <li>長期的に、湿原と人々のつながりをつくり、流域の社会・経済の発展に貢献していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>湿原のことを利害関係者に伝え、学びや参加の場を創り出し、ワイズユースに向けて行動する人を増やし、そうした取り組みを支援する。</li> <li>第2期計画を継承しつつ、湿原を活用した環境教育や自然再生への参加が地域に根付いていくことが目標。</li> </ul>
性格	<ul style="list-style-type: none"> <li>(再生事業実施者や事務局だけではなく)協議会としての計画。</li> <li>自然再生全体を環境教育や市民参加のもとに進めて行くための横断的な指針であり、実施計画に準じる役割をもつ。</li> <li>「できる者」が「できること」からを原則に、目指す方向を示す。</li> <li>「ワンダグリンダ・プロジェクト」を通して誰でも参加できる。</li> </ul>	
期間	2010～2014年度(5年間)	2015～2019年度(5年間)
推進体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>行動計画ワーキンググループ</li> <li>ワンダグリンダ・プロジェクト(毎年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>再生普及小委員会で進行管理</li> <li>((仮)「行動計画推進チーム」を設置)</li> <li>ワンダグリンダ・プロジェクト(継続)</li> </ul>
重点事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>釧路湿原を知る、楽しむ、学ぶ</li> <li>自然再生に参加する、行動する</li> <li>地域と関わり、人をつなぐ</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>湿原にふれる、楽しむ</li> <li>湿原を学ぶ、湿原で学ぶ</li> <li>湿原のために行動する</li> <li>湿原と地域のくらしをつなぐ</li> </ol>

4

## 進行管理と推進体制

### 小委主体の推進体制

行動計画ワーキンググループ



再生普及小委員会

- 行動計画は、再生普及小委員会が推進主体となって進行管理する。
- 現在の行動計画ワーキンググループは一旦終了し、改めて小委員会間連携等のための作業チームを設置する。
- 必要に応じてワーキンググループ等を設置する。

### 再生普及小委員会の役割

普及小委としての普及活動



自然再生全体の普及活動

- 他小委から独立した活動ではなく、他小委や個別実施計画等、自然再生事業全体を見渡して活動する。
- 自ら先導的に事業を実施することはあるが、基本的には事業実施者や協議会構成員の活動を促進していく役割。
- 「普及」の横串を小委員会間連携により確保する。(作業チームの設置、普及小委での各小委からの報告等)

### 釧路湿原自然再生協議会

湿原再生小委員会

旧川復元小委員会

森林再生小委員会

水循環小委員会

土砂流入小委員会

(仮)ワイズユース小委員会

再生普及小委員会  
(仮)行動計画推進チーム

(仮)湿原学習のための学校支援  
ワーキンググループ

7

※再生普及小委員会配布資料より抜粋

## 環境教育WG→(仮)湿原学習のための学校支援WGへの体制変更

現在の環境教育WGは終了し、2015年度に新たなワーキンググループを設置する。

	第2期行動計画	第3期行動計画
体制	環境教育WG	(仮称)湿原学習のための学校支援WG (略称:「学校支援WG」)
役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 流域の学校の環境教育における湿原の活用に向けた、情報収集、方針検討、活動支援等</li> <li>➢ 現在は教科学習における湿原活用のための、教材作成や教員研修等を実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 主として<u>流域の学校教育における湿原の活用</u>に向けて、               <ul style="list-style-type: none"> <li>① 先導的な授業実践や教材作成</li> <li>② 教員への研修機会の提供</li> <li>③ 学校と国立公園利用施設、社会教育施設や地域のNPO、事業者、専門家との連携支援等を進める<u>プロジェクト実行委員会的な役割</u>を担う。</li> </ul> </li> </ul>
構成	➢ 再生普及小委員会構成員のうち希望者	➢ 上記 <u>プロジェクトの当事者</u> (環境教育分野の有識者、実践校、教委等の学校教育関係者、協力団体・機関等)で実務的に構成
開催頻度	➢ 年1～2回程度	➢ 年2回程度想定(必要に応じて少人数の打合せ等を併用する)
事務局	➢ 環境省釧路自然環境事務所	➢ 環境省釧路自然環境事務所 (日常的には、再生普及行動計画オフィス) 9

※再生普及小委員会配布資料より抜粋